

そのひとしずくの始まりを、大切にしたい。

諏訪^{こくら}五蔵「霧ヶ峰・福ひろいウォーク」プロジェクトレポート
主催:諏訪五蔵 共催:NPO 法人霧ヶ峰基金
後援:長野県霧ヶ峰自然保護センター



諏訪市の旧上諏訪町内、特に角間川の扇状地と甲州街道が差し掛かる現在の諏訪市諏訪から元町地区では、角間川や霧ヶ峰山塊の伏流水が非常に豊富にあったため、江戸時代より酒や味噌などをはじめとする醸造業や染物業が盛んに営まれました。

特に醸造業は高島城の城下町以外で営むことが禁止されたことと、霧ヶ峰山塊の豊富な伏流水があったために、現在の諏訪市内の国道 20 号線沿い付近に集中しました。

きっかけは、すぐ近くに。

酒醸蔵業はさかのぼること江戸時代より始まり、創業順から

宮坂醸造	寛文 2 年(1662 年)
酒ぬのや本金酒造	宝暦 6 年(1756 年)
麗人酒造	寛政元年(1789 年)
舞姫酒造	明治 27 年(1894 年)
伊東酒造	昭和 38 年(1963 年)

の、5 軒が今でも酒醸造を行っています。

創業年については各社ホームページより引用

江戸時代に 13 軒あった造り酒屋は今では 5 軒になりましたが、造り酒屋がこれだけの地区に軒を連ねていることは国内でも稀です。

諏訪の醸造業を支えた霧ヶ峰高原の伏流水、甲州街道沿いの造り酒屋は、酒をすることにより高島城下町と甲州街道上諏訪宿の歴史と文化を醸し出してきました。

「酒の仕込み水の水源地を見てみたい」

「水源地のために、自分たちですぐにはじめられることはあるだろうか」

「水源地である霧ヶ峰のゴミを拾うことなら、私たちにもすぐできる」。

造り酒屋が仕込みの水を守るためには水源地のゴミを拾う。

**水源地となる霧ヶ峰を守ることは諏訪の酒を守ること、
水源地の一滴の水がわれわれの仕込む水となり、そして一滴の酒となる。**

その大切な一滴を守りたい。

みんなで歩道沿いのゴミを拾いながら仕込み水の源の景色を楽しみつつのんびり歩き、ついでにとん汁会でお昼ごはんにして賑やかにいこうじゃないか、という企画となり、「ゴミ拾い」ではなく「福ひろい」にしよう！と、真澄蔵元の宮坂社長のアイデアで「霧ヶ峰・福ひろいウォーク」となりました。



できることから、始めよう。

ただ歩くだけでは面白くない、霧ヶ峰のことも勉強しながら歩こうじゃないかと企画はふくらんで、「霧ヶ峰・福ひろいウォーク」には、霧ヶ峰高原で活動する NPO 法人霧ヶ峰基金の会員がガイド役をつとめることになりました。

2008年9月14日、「週末は雨」という天気予報を跳ね返して、各酒蔵から30余名が集まって「霧ヶ峰・福ひろいウォーク」はスタートしました。



諏訪五蔵代表の舞姫・土橋社長のごあいさつ



真澄・宮坂社長と本金の若旦那、宮坂夫妻



麗人・小口さん&蔵のはっぴ応援団(?)



横笛・保科さん



本日のガイド役@霧ヶ峰基金(右から3名)

「チョイゆる・車山肩チーム」(2チーム)と「体力自慢!池のくるみチーム」(1チーム)にわかれ、霧ヶ峰自然保護センターの庭からスタートしました。

勇猛果敢、意気揚然。

さすが日本の伝統を支えるトップランナー揃い!

みなさんこそって「体力自慢!池のくるみコース」に志願。予想外の諏訪五蔵の皆さんの反応にガイド役の私たちもびっくり。

では、^{びく}魚籠をしょって「行ってきまーす!」



運動不足ぎみな「チョイゆる・車山肩チーム」は、準備体操も念入りに...
「最近さあ、歩いてないんだよ」
「明日、痛くて動けなかったりして...」



最初の一步は「知る」。

「チョイゆる・車山肩チーム」は子供たちも混ざった信濃路自然遊歩道経由とゴマ石山直行経由でそれぞれ車山肩を目指します。



そう、ゴミは人のいるところに落ちる。
ベンチの周辺や立ち寄りそうな場所はしっかりチェック！
「意外とキレイだね。」

近くに「水神社」。
100年ほど前には既にこの場所にはあったようですが、その縁起は定かではありません。



水神社は、「樹叢」と

呼ばれる森の中に祀られています。

この森はかつて水が湧いていたという話を聞いたことがあります。

地下で水が流れる音がすることもあるともいわれ、どうやら地下に水が流れているようです。

貴重な水場として、大切にされた証かもしれません。

こちらでは、地面に露出したかつての「溶岩」発見。

霧ヶ峰の原型ができた130万年～30万年前に流れ出した溶岩が冷えて、板状に割れる性質を持ちました。

諏訪地方では「鉄平石」と呼ばれ、庭の敷石や塀、古い建物には屋根瓦代わりに使われています。



子どもたち、
ちょっとお疲れ？

飴の包み紙。登山道の端っこによく落ちています



「動物の“落としもの”だね」
「毛が入ってる...」
何を食べたかわかると、どんな生き物がここで暮らしているかわかります。
「ビニール袋が出てくることもありますよ」
「食べ物と間違えてしまうんだ」



休憩もプログラムのうち。
霧ヶ峰には、
「ゆっくりのんびり」がよくあう。

(子どもたちがおやつを分けてくれたようです)
「ありがとね。」



見ることは「知る」こと。

「体力自慢！池のくるみチーム」は、霧ヶ峰の中でも観光客が最も多く集まる場所のひとつ、「忘れじの丘」を通して、「池のくるみ」を目指します。

秋の花、マツムシソウ。
花を咲かせ、種を作れるようになるまで2年以上、
条件が整わないときは、何年か花をつけずに待ち続けます。
草原の変化とともに、
暮らすところが減っている花のひとつ。



やはり人が通る場所には多い。
特に気になる、「たばこのフィルター」

「池のくるみチーム」のガイドは、
昔、「舞姫」で働いていました。
「酒を造る人には、ぜひ、池のくるみ
を見せたい」と、
ガイドを買ってでてくれました。



諏訪湖を一望する
「薙鎌神社」でお参り。
旧御射山神社から
出土した薙鎌を御神体に、
昭和7年、ここへ祀られ
ました。
御柱も建てられています。



踊場湿原（天然記念物）を
取り囲む一帯を
「池のくるみ」といいます。
江戸時代の書物「諏訪かのこ」には、その名称がすでに登場し、風光明媚な様子が記録されています
踊場湿原は車山から端を発するイモリ沢から水が流れ込みます。近年、湿原内の水位が季節的に大きく変動したり、減っていることが指摘されています。
また、茅野市側への檜沢川、諏訪市の清水橋水源などに水を供給しているといわれています。
まさに「水源」を身近に感じる場所です。

あとちょっとでゴール！
がんばってー！！



シメは酒蔵のおかみさん特製レシピのとん汁。働いた後の爽快感も格別のスパイスに。

「美味しい！」

お疲れさまでした。また、来年！



拾ったものから霧ヶ峰を観る。

3つのチームが集めてきたゴミは、それほどたくさんではありませんでした。

小さめの段ボール箱にひと箱程度。

これには造り酒屋の皆さんも拍子抜けするおどろきでした。

ゴミを分類したところ、

- ・車山肩チーム(2チーム) 36種類 99点
- ・池のくるみチーム 35種類 176点

と、いうデータが得られました。

かつて、霧ヶ峰のあちこちで多くみられた「ポイ捨てした空き缶」のような悪意ある捨て方を思わせるものは少なく、「うっかり落としてしまった」と思われる性質のものが多く見られました。

これは、歩道を利用するかたのマナーが向上したことも、大きな一因かと思われます。

しかしながら、池のくるみコースからは車山肩コースには見られない、傾向がくっきりと現れました。

	たばこの吸殻	トウモロコシの芯	食品の包装紙	飴の包装紙	紙類
池のくるみコース	76	3	15	9	23
車山肩コース	18	0	6	21	10

(2008年9月14日、データの一部)

池のくるみコースは「霧ヶ峰自然保護センター 忘れじの丘・霧鐘塔 薙鎌神社 踊り場湿原 (市道経由) 霧ヶ峰自然保護センター」という経路で歩きました。

このコースはドライブインや駐車場、観光名所が至近にあり、特に夏の観光シーズンには多くの観光客が散策したり立ち寄りたりする場所を含んでいました。また、車道に接する部分もあり、人との接触が多く、その分、多くのゴミが見られることが推定できます。たばこの吸殻の多さはそれをあらわしていると思われます。

私たちがゴミを分類していて気がかりに感じたことは、食品に関係したゴミが多かったことでした。トウモロコシの芯は観光客が捨てたものでしょう。「腐って土の栄養になるから大丈夫」と考え、捨てたものとも考えられます。

ところが、霧ヶ峰の草原は採草により有機物を持ち出し続けた貧栄養状態の土壌の上になり立っています。富栄養化した土壌は、植生を変えてしまう恐れがあります。霧ヶ峰の植生にとって「栄養になるもの」は脅威です。

さらに、「トウモロコシの芯」は、一部の野生動物にとって魅力的なものです。実の一部が甘く栄養価が高く、そして楽に空腹を満たすことのできる「トウモロコシの芯」は彼らにとってとびきりのごちそうです。動物たちがこれらの味を覚えたら、本来のえさとなるものを摂らなくなります。また、食物が付着したペットボトルをかじったり、包装紙などを餌と間違えて食べてしまったりします。これらのゴミは場合によっては腸閉塞を引き起こし、最悪の場合は死を招きます。

霧ヶ峰に暮らす生き物たちも「食う・食われる」といったつながりの中で、お互いが微妙な関係を保ちながら暮らしています。たとえば、草原の植物の根を食べるハタネズミをキツネが捕食することで、ハタネズミの数がコントロールされ、植性が維持される一面があることは見逃せません。



異物が混入したキツネの糞 (2008年6月八島ヶ原湿原木道上)
この場合は運良く排泄されたが...

誰にでもできること。

ゴミを拾って歩くことは、何も特別なことではありません。自分の家の近所、学校の廊下、いつも通るあの道、風の通る草はら、遊びに行く森、ほっと安らぐ秘密の場所…。

「いつもきれいであってほしい」「居心地のいい場所であってほしい」という願いこそが、心を、人を動かします。



あなたがそう願う場所は、ほとんどの場合、あなた一人の場所ではなく、多くの生き物が複雑に関係しあって暮らし、お互いが支えあ

う、まさに命の営みの最先端の場所です。

霧ヶ峰にも雨が降り、草原をくぐり湿原を抜け、やがて湧き出し川となり、里を潤します。

一方で、酒になったり染物に使われたり、人々の暮らしにとけ込んで、豊かな生活と文化をもたらします



霧ヶ峰の歴史は霧ヶ峰に暮らす生き物と人々のかかわりとの歴史でもあります。



旧石器時代の人々が黒耀石を求め霧ヶ峰を行き来した時代、中世には神棲む山として崇められ祭祀の舞台となり、江戸時代には草刈りの場所として多くの人々が暮らしの糧を求めて利用し、それは昭和 30 年代まで続けられました。



霧ヶ峰の厳しい自然環境をつぶさに観察し巧みに利用した先人の知恵は、今も「なだらかな草原景観」として、私たちの前にその優美な姿を示しています。

しかし、科学技術の発達や石油の流通などにもたらされた、人の暮らしの変化は、ゆっくりと確実に霧ヶ峰にも表れています。

- ・樹木が繁茂し、草原が森になる。
- ・ニッコウキスゲの大群落を見ようと夏の一時期に観光客が、自家用車で大挙する。
- ・湿原の乾燥傾向と大量の地下水のくみ上げ。

これらは一見、私たちの暮らしにどうかかわっているのかわかりにくいのです。

ただ一つ、言えることは霧ヶ峰のあの台上に広がる、なだらかなスロープが重なる草原景観は、私たちのご先祖が自然環境に向き合った暮らしの中で生み出された財産や文化、そして積み重ねられた暮らしの証人なのです。現代の私たちが、彼らと同じ方法で草原を利用していくことは困難ですが、現代にあった形で霧ヶ峰を利用し草原景観を維持していく方法を考える必要があります。

草原を歩くとき、湿原を訪れるとき。

どうか「ひと」と「霧ヶ峰」のかかわりを感じながら歩くことを楽しんでみてはいかがでしょうか。

霧ヶ峰の未来のためにできること。